

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

千葉大学 文・法経学部

前期日程

科目

国語(現代文)

試験時間	90分	満点(配点)	文 200点、法経(法 200点、 経済・総合政策 150点)	出題数	現代文 1題、古文 1題、漢文 1題			
総括					難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
					分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

2003年まで現代文は2題(評論と小説)だったが、04年以降1題となった。04年は小説、05年から07年までは随筆が出されてきたが、08年に引き続き2年連続で評論からの出題であった。文章の分量は昨年の半分程度に減少し、設問数もいままでの8問から1問減少して7問となった。本文のレベルは昨年並みである。記述量が減ったので、全体的には易化といえよう。したがって取りこぼしは出来ないところだが、問一～問三の単純な知識問題で点を落としそうである。

〈特記事項・トピックス〉

- 文章量が半減した。
- 設問数が従来の8問から7問に減少した。
- 知識問題は昨年より難化した。
- 内容説明問題は昨年より易化した。

〈合格への学習対策〉

一般的な評論用語をはじめとする語彙力と、論理を確実に押さえた上での正確な理解力を身に付ける努力を続けていくこと。加えて、解答枠内におさめる的確な表現を書けるようになるための記述訓練はかかせない。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
第一問	評論	『自分ということ』(木村敏)	小説→随筆→評論と変化してきた。来年以降も評論が出されるかは決めつけがたい。設問形式には大きな変化はないが、文章量・設問数の減少は大きな変化である。	標準

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
第一問	一	漢字の読みと書き取り	昨年度は易化したが、また過去のレベルに戻った。易しくないだろう。	やや難
	二	空欄補充	対立語が入ることは予想できそうだが、4箇所ともに正しく答えられる受験生は少ないだろう。	やや難
	三	古語解釈	「はかる」の意味をどう表現するかが悩ましいだろう。	標準
	四	具体的内容説明	設問の意図を読み取り正しく答えることに注意が必要である。	やや難
	五	理由説明	対比関係を押さえれば答えの方向は決まるだろう。	標準
	六	理由説明	そこまでの2段落を理解できれば、答えの方向に迷いはないだろう。	標準
	七	具体内容説明	基本の解答方向はすぐに見いだせるだろうが、解答枠が広いので、要素を的確に付加する必要がある。	標準

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階(難・やや難・標準・やや易・易)で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。